

百葉

Manyoh

待望の常磐自動車道全線開通

2015年5月20日待ちに待った全線開通(3月1日から仙台まで)。感慨深い思いで常磐自動車道を走り抜けました。一冊の会では、2011年3月11日の東日本大震災発生以来、津波で大きな被害を受けた東北を中心に支援活動を開始。今回で95回目の訪問となりました。高速を利用し直線コースで距離も短縮、ありがたさを実感しました。これまでは、東北道・福島西ICから二つの峠を越えて海岸に出ておりました。前回94回目の運転を担当して下さった先輩からは、昨年12月末に通った時は富岡で高速を降りて、国道6号線の一般道で相馬市に入ったそうです。道路沿いの家の前は、一軒一軒バリケードで、人ひとり入る事が出来ずゴーストタウン化した姿に胸が張り裂ける思いだったそうです。またどの家も立派な佇(たたず)まいばかり。あの日から早くも4年が過ぎ、どんな思いで避難をしているかと思うとかけ言葉も見つかりません。放射能汚染のため自動車の窓は閉めなければならず、立ち止まることも許されない状態。あちこちに立っている立て看板には「自動二輪車・原付自動車・軽車両・歩行者は通行できません。」と書いてあります。目的地まで前に前にと進むのみです。しかも帰りの夜道は人が住んでいない証拠に灯りはなく、真っ暗な中を自動車のライトを頼りに通らなければなりません。恐ろしさと緊張感のなか無事故を願って走り抜けた・・・と語って下さった先輩の言葉が思い出されます。

今回は、「新しい道」。常磐道開通後、復興はどこまで進んでいるのだろうか？希望を抱きながら富岡から大熊・双葉・浪江・南相馬と走りました。車窓から見えた風景は、真っ黒な袋に包まれた原発で汚染され



写真左：立ち入れないようバリケードで封鎖



写真右：集積された汚染土

た草や土等・・・です。途中、国土の表面を削る大規模な除染作業を行っているのが良くわかり厳しい現状を叩きつけられた思いでした。作付けが出来ない農地や、家の周りにうず高く置かれた仮置き場の状態が延々と続き、途中只今の放射線濃度は“〇〇”と表示され、現実の厳しさに胸が締め付けられる思いでした。最初の訪問先の相馬市役所では、いつもの優しい笑顔で横山課長が出迎えて下さり、被災者の移住状況等説明を頂きました。私たちが支援を続けていた柚木仮設住宅入居者は、阿部洋子さん一家の引越で最後と成りました。長い間、生活の基盤そのものが奪われた被災者は”少しではありますが”、解放された、5月5日の“子どもの日”、公営住宅に引越。“よくぞここまで頑張っておられた。”ことに感謝の思いで真心の新居祝いをお持ちし

ましたと伝えると、心から喜んで下さり公営住宅をご案内頂きました。公営住宅は海から離れた高台に建ち、そこからは海も見え、かつて自宅の有った場所も見える所でした。

真新しい木の香りが薫る二階建て、駐車場と可愛らしい庭。御夫妻はゼロからの出発。「これからは手も足も伸ばしてゆっくりと寝られる・・・」と新生の出発（たびたち）の熱い決意を聞かせて頂きました。そこから雪香プロスパーポローニアを植樹した相馬市立磯部小学校を訪れました。ここからは東北担当理事の齋藤篤ご夫妻と合流。佐藤校長先生とも久しぶりに再会。今年は津波で亡くなられた児童が卒業された年でも有ることから、犠牲に成られた児童に大槻会長が献花をさせて頂き、一緒に祈りを捧げました。校庭に植樹して4年。雪香プロスパーポローニアはとても大きく成長しておりました。5月上旬には花が咲きました。レソト王国の首相の御手植えの木は2年で花が咲いた事に成ります。嬉しい限りです。日頃からお世話を下さっている現地の皆さんに感謝です。



写真左：佐藤校長先生と磯部小学校にて



写真右：宮城県山元町、牛橋公園

次に、宮城県山元町、牛橋公園に植樹した雪香プロスパーポローニアを訪れました。植樹して1年が経とうとしており、幹がだんだんと太くなっておりました。下枝を払い肥料をあげ、次に宮城県名取市閑上（ゆりあげ）港に植樹した雪香プロスパーポローニアを訪れました。植樹した場所は海辺で津波を被った土地なので、塩分が多い場所です。今年は雪も降り、悪条件の中しっかりと根を張り、逞しく生き抜いてくれていました。添え木と肥料をあげ感動的な雪香プロスパーポローニア巡りでした。

今回、福島、宮城の一部を周ってまいりましたが、ニュースではわからない現地を見る事の大切さを改めて実感しました。護岸工事が進んでいるとはいえ、復興までの道のりは遠く感じ、継続した支援の必要性を肌で感じました。原発災害の現状もほんの少しですが一端を知ることが出来ました。

～おしらせ～

7月6日青森県八戸市の“長者まつりんぐ広場”に雪香プロスパーポローニアを植樹致します。